

www.wowow.co.jp

W O W O W

会社案内

総合エンターテインメント・メディアグループへ

WOWOWは、日本初の民間衛星放送局として1991年に放送を開始し、以来四半世紀余り、有料放送のフロントランナーとして走り続けてまいりました。

WOWOWプライム、ライブ、シネマの3チャンネルと、WOWOWメンバーズオンデマンドを通じて、国内外の珠玉のエンターテインメントを、テレビ及び様々なデバイスを通じてお客様にお届けしています。

近年、ライフスタイルの変化に伴い、映像コンテンツの楽しみ方は多様化しています。

私たちは、お客様のニーズの変化に応え、サービスを進化させていきます。

「WOWOWらしさ」を貫き、差別化されたコンテンツを産み出していきます。

「最強のプロデューサー集団」として、日本のクリエイティブの先頭に立ち、独自の表現に挑戦し続けます。

そして、国内外のクリエイターと共に、新鮮な驚きと感動を、日本及び世界に提供します。

WOWOWグループにしか提供できない価値を創造し続けることで、豊かな社会と文化の発展に貢献し、社会から信頼され、愛され、必要とされる「総合エンターテインメント・メディアグループ」へと成長してまいります。これからのWOWOWにどうぞご期待ください。



代表取締役 社長執行役員
田中 晃

あらゆるエンターテインメントを、あらゆるカタチで。

■WOWOWの魅力を、あらゆるメディアから。

テレビの楽しみ方が多様化している今、WOWOWを楽しむ方法もひとつではありません。あらゆるメディアからアクセスできるのも、WOWOWの強みです。



月額視聴料 **2,300円** (税別)

WOWOWプライム(191ch) / WOWOWライブ(192ch) / WOWOWシネマ(193ch) / WOWOWメンバーズオンデマンド / <月刊プログラムガイド付>

■グループシナジーを最大化するWOWOWグループ。

卓越したエンターテインメントが集まる場に進化し、新鮮な驚きと感動を提供する。独自のプラットフォームを目指し、WOWOWは、新しいグループ経営のステージに突入します。



WOWOWオリジナル

WOWOWだからこそ表現できる「上質」にこだわったクオリティファーストの作品作りが、国内外で高い評価を得ています。ドラマ、映画、ドキュメンタリー、イベント…

ドラマW・連続ドラマW

ドラマWは、2003年に「真のエンターテインメント性に富んだドラマを目指し、作品のクオリティを極限まで追求する」というコンセプトのもとにスタート。
2008年4月には、「ドラマW」のコンセプトをもとに、継続的にご覧いただけるオリジナルコンテンツを視聴者に届けたいという思いから「連続ドラマW」がスタートしました。
以来、ハイクオリティで独創的なドラマが、次々と生まれています。



連続ドラマW
沈まぬ太陽
東京ドラマアワード2016 作品賞 連続ドラマ部門 優秀賞、ギャラクシー賞2016年9月度月間賞、平成29年日本放送連盟賞 番組部門 テレビドラマ番組 優秀賞



WOWOW×TBS共同制作ドラマ
MOZU
東京ドラマアワード2014 作品賞 連続ドラマ部門 優秀賞、吉田綱太郎 個人賞 俳優部門 助演男優賞(MOZU Season1 ~百舌の叫ぶ夜~)、北九州フィルム・コミッション 特別賞(MOZU Season1 ~百舌の叫ぶ夜~)、ギャラクシー賞2014年7月度月間賞(MOZU Season2 ~幻の翼~)



連続ドラマW
そして、生きる
WOWOWで全6話を放送後、番組を再編集して2時間の劇場版を製作。WOWOW初となる全国公開規模での単独配給を実現。



連続ドラマW
バンドラ
平成20年日本放送連盟賞 番組部門 テレビドラマ番組 優秀賞、東京ドラマアワード2008 作品賞 連続ドラマ部門 グランプリ/脚本賞/演出賞、ギャラクシー賞2008年4月度月間賞



連続ドラマW
空飛ぶタイヤ
平成21年日本放送連盟賞 番組部門 テレビドラマ番組 最優秀賞、第26回ATP賞テレビグランプリ2009 グランプリ/ドラマ部門 最優秀賞、東京ドラマアワード2009 連続ドラマ部門 優秀賞



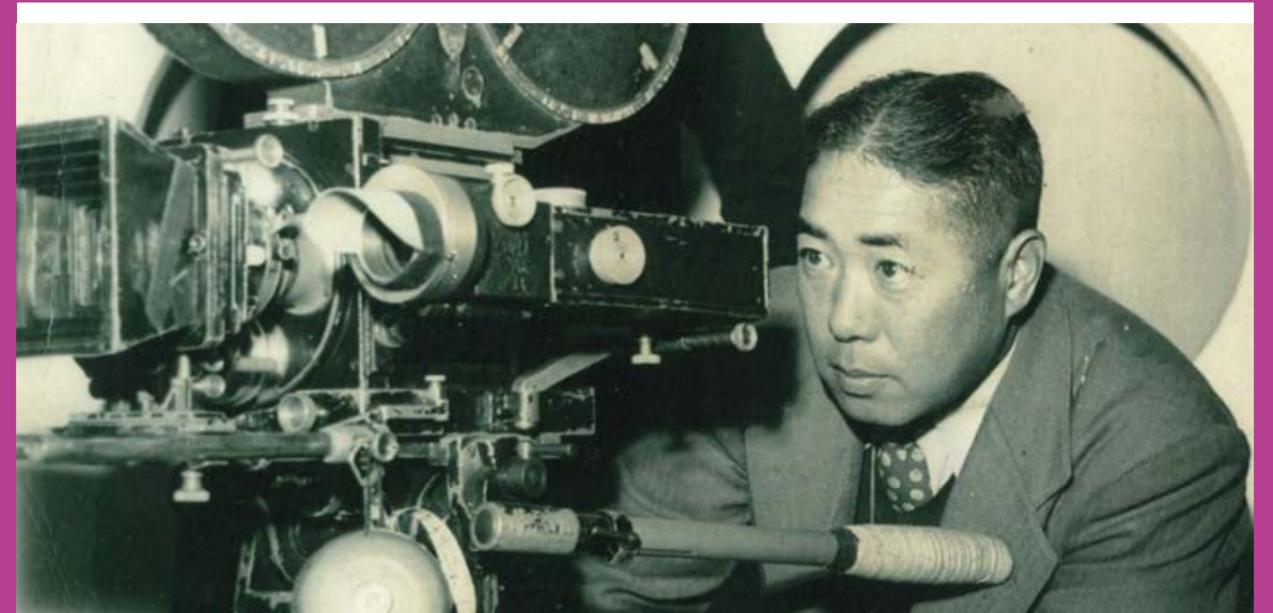
連続ドラマW
坂の途中の家
2019年日本放送連盟賞 番組部門 テレビドラマ番組 優秀賞

あらゆる「色」をもったエンターテインメントを、作りつづけていきます。

WOWOW Originals

WOWOWオリジナルドキュメンタリー ノンフィクションW

大人の知的好奇心を刺激するノンフィクション・エンターテインメントとして2009年に放送を開始したオリジナルドキュメンタリーシリーズ。
そのクオリティは国内外で高く評価され、国際エミー賞や日本放送文化大賞をはじめ、これまでに数多くの賞を受賞しています。



ノンフィクションW
撮影監督ハリー三村のヒロシマ ~カラーフィルムに残された復興への祈り~
第44回国際エミー賞 芸術番組部門、平成28年日本放送連盟賞 番組部門 テレビ教養番組 最優秀



ノンフィクションW
映画で国境を超える日 ~映像作家・ヤン ヨンヒという生き方~
第9回日本放送文化大賞 グランプリ(テレビ)、第30回ATP賞テレビグランプリ2013 ドキュメンタリー部門 奨励賞



ノンフィクションW
プロゴルファー 畑岡奈紗 20歳 ~母と歩む、世界への道~
メジャー制覇、そして東京オリンピックへ。2019シーズンに挑んだプロゴルファー畑岡奈紗に密着、家族とともにさらなる高みを目指す彼女の強さに迫る。



ノンフィクションW
野村家三代 ハリに舞う ~万作・萬斎・裕基、未来へ~
平成30年度(第73回)文化庁芸術祭テレビドキュメンタリー部門 優秀賞



ノンフィクションW
シャルルの幻想の島 ~日本の祝祭とフランス人写真家~
平成30年日本放送連盟賞 番組部門 テレビ教養 優秀賞

オリジナル番組

ミュージカル、トークバラエティ、「猫モテ」番組など、さまざまなジャンルにフォーカスしたオリジナル番組を制作しています。



福田雄一×井上芳雄
グリーン&ブラックス



おしゃべりアラモード
~森山良子と清水ミチコとプラスワン~



ねこが笑えば

WOWOW オリジナルイベント

コンセプトライブや野外キャンプフェスなど様々な形態でのオリジナルイベントを主催しています。



FUJI&SUN



SONGS&FRIENDS
佐野元春『Café Bohemia』



ディズニー・ブロードウェイ・ヒッツ

WOWOWオリジナル

WOWOW Originals

パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ WHO I AM

パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ「WHO I AM」は、WOWOWとIPC(国際パラリンピック委員会)との共同プロジェクトとして2016年にスタートし、東京パラリンピック開催を見据え世界最高峰のバラアスリートに迫る大型シリーズです。



IPC & WOWOW パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ
WHO I AM
—これが自分だ!という輝き—

IPC&WOWOW パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ
WHO I AM

WHO I AM シーズン1:平成29年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門 青少年向け番組 優秀 / WHO I AM シーズン1(エリー・コール):平成29年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門 青少年向け番組 優秀
WHO I AM シーズン2:第46回国際エミー賞 ドキュメンタリー番組部門 ノミネート、第23回 アジア・テレビジョン・アワード ドキュメンタリーシリーズ部門 ノミネート
WHO I AM シーズン2(ベアトリーチェ・ヴィオ):平成30年日本民間放送連盟賞 特別表彰部門 青少年向け番組 優秀、ABU賞 テレビ・スポーツ部門 最優秀賞 / (森井大輝):第49回科学放送高柳賞 最優秀賞、第60回科学技術映像祭 文部科学大臣賞 研究・技術開発部門受賞
WHO I AM シーズン4 (カーティス・マグラス):第10回衛星放送協会オリジナル番組アワード番組部門「ドキュメンタリー」最優秀賞

WOWOW FILMS

2007年に立ち上げた劇場用映画レーベル「WOWOW FILMS」。徹底してクオリティにこだわったエンターテインメント性の高い映画を企画・製作し、日本のみならず世界の映画ファンへお届けしています。WOWOWオリジナルドラマと運動し大型作品から海外映画祭に出品される作品など、WOWOWならではの多岐に渡る製作展開で、多くの映画ファンを魅了してきました。



泣き虫しよったんの奇跡
©2019「泣き虫しよったんの奇跡」製作委員会 ©東川昌司/講談社

友罪
第92回キネマ旬報ベスト・テン 日本映画監督賞
©系丸 品/宝英社 ©2018映画「友罪」製作委員会

岸辺の旅
第68回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門 監督賞 / 第10回アジア・フィルム・アワード 最優秀助演男優賞(浅野忠信) / 第70回毎日映画コンクール 日本映画優秀賞 / 第89回キネマ旬報ベスト・テン 主演女優賞(深津絵里)
©2015「岸辺の旅」製作委員会 ©CMM/DESIGN/MA5

ミュージアム
音量を上げるタコ!
なに歌ってんのが全然わかんねえんだよ!!
©2016映画「ミュージアム」製作委員会

優れたエンターテインメントは、たったひとりでは生まれない。

WOWOWが世に送り出すエンターテインメントやサービスの数々は、多くの社員たちによって生み出されています。制作部門、技術部門、管理部門…各部署の社員たちが、現在のプロジェクトに対する想いや課題、今後の展望などを、熱く語ります。

番組を通じて 価値観が変わるような 出会いをしてほしい。

制作局制作部
泉 理絵

世界中の面白いエンターテインメントを日本に伝えたい。そんな想いを抱いている時に出会ったのが世界最高峰のエンターテインメントを届ける会社、WOWOWです。2013年WOWOWに入社後、WOWOWのウェブサイト、WOWOW ONLINEやSNS、マーケティングなど、デジタル部門に所属。ユーザーコミュニケーションツールの企画、運用なども担当しました。その後異動となり、番組制作に携わるようになりました。2015年より、国際パラリンピック委員会(IPC)とWOWOWが共同で立ち上げたパラ



リンピックドキュメンタリーシリーズ「WHO I AM」のプロデューサーとしてシリーズ立ち上げを担当。海外生活の経験を活かし、実際の取材の現場で選手たちにインタビューを行なうのももちろん、世界中の競技団体や関係者たちとのコネクションを構築し、番組制作だけではなく、「WHO I AM」シリーズを広く世界に展開するために、多岐に渡る活動を行なっています。このシリーズを通じて私自身、価値観が一変するような新しい出会い、体験をたくさんしてきました。番組を通じて、多くの人々にパラリンピックに出会ってもらい、私のように価値観が一変するような体験をしてもらえたらと思っています。とにかく出会って、知ってほしいです。本当に面白いから。そんな想いで日々新しい出会いにわくわくしながらドキュメンタリー制作をしています。

WOWOWなら、 新技術とエンターテインメント の両方に関われる。

技術ICT局技術ICT企画部
神保 直史

新しい技術で新しいサービスを届けたいという想いで、新技術とエンターテインメントの両方に関われるWOWOWに入社しました。4年目でWOWOWメンバーズオンデマンドの立ち上げを担当した時は、いままでにない仕組みを作るために、多岐にわたる業務を短期間でやりきり、大きな自信になりました。現在所属する技術企画部では、新技術の調査と、今後に繋がる映像関連技術の研究開発を担当しています。最近では、映像配信アプリ「Live Multi Viewing」をTBSテレビと共同開発しました。イベント会場内で聞こ



える音と一緒に使用しても違和感がない程、ほぼリアルタイムに映像や音声を届けることができます。音楽フェスやスポーツイベントで活用されたり、スタジアムに常設もされました。今後は5GやARなど新しい技術との組み合わせを考えています。WOWOWは規模感と立ち位置が最高の会社。全社員の顔が分かるので、他部署との検討がすぐに進んでいきます。立ち位置で言うと、特定のキー局系では無いので、どのテレビ局ともタッグを組める。また、最先端テクノロジーとの出会いもたくさんあります。大手メーカーの開発担当や、海外ベンダーの技術者と打合せすることもありますし、海外の技術展示会にも参加します。新しいことを生み出すコツは、かけ算。何と何を組み合わせたら、もっと面白いことが起きるかを常に考える。それが私の仕事だと思っています。

WOWOWでは、 社員全員が プロデューサーである。

マーケティング局カスタマーリレーション部
根田 雄生

エンターテインメントへの深い愛を持ったお客様が日本中から集まるWOWOWで、テレビ画面を通じてもっと世界の感動と興奮を届けたい。そんな想いで入社して以来、様々な角度からマーケティングに携わってきました。カスタマーリレーション部では既加入者サービスの運営を、編成部ではスポーツジャンル全般と情報番組を担当し、データマーケティング部でお客様の行動データを集積するDMPを活用したメールマーケティングや広告配信の施策立案を行い、現在はカスタマーリレーション部に戻りデジタルマーケティング



に携わっています。これまでに一番印象に残っている仕事は、2011年にスタートした『ザ・プライムショー』の立ち上げです。生中継でお届けした平日の帯番組。無料放送でしたのでまだご加入頂いていないお客様に私たちを知って頂くことが番組の目的でした。そうした「一人でも多くの方へ届くコンテンツ開発」を試行錯誤した経験を、現在はマーケティングの領域での施策作りに役立てています。WOWOWは、まだまだ伸びしろがある会社だと思います。お客様のニーズを分析すればもっと面白いことができるはず。これからのWOWOWの事業はテレビ放送だけではなく、あらゆるカタチでのサービス提案型にシフトしていきます。新技術を使ったお客様とのコミュニケーションやリアルチャネルを通じた事業開発などに興味のある人にとっては、チャレンジし甲斐のある環境だと思います。

関連会社

総合エンターテインメント・メディアグループを目指すWOWOWの関連会社をご紹介します。

Affiliated Companies

株式会社WOWOWコミュニケーションズ



コンタクトセンター受託運営・構築を始め、Web、SNS、メールにおけるデジタルマーケティング支援、旅行や通信販売、イベントの企画・運営まで、様々なお客様接点で“キモチ”を捉えるソリューションを提供します。

【業務内容】 テレマーケティングサービス(各種コールセンター受託運営、カスタマーセンター構築ソリューションをはじめとする顧客管理業務全般、コールセンター対応品質コンサルティングや教育・研修、会員サービス事業・事務局代行) / デジタルマーケティングサービス(SNSサポートサービス、メールマーケティング、Webサイト構築・アプリ開発) / リアルサービス(通信販売事業、旅行事業(ツアー企画)、イベント運営サポート)

本社 〒220-8080 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-5 横浜アイマークプレイス3F
本社分室 〒220-8080 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-2 横浜ブルーアベニュー6F

WOWOWエンタテインメント株式会社



音楽・スポーツの中継・収録を中心に、CC字幕制作、回線業務など番組制作を支える技術会社であるだけでなく、番組の制作や調達、海外ドラマの吹替版制作、映画・ドラマの字幕版制作、パッケージ制作、アーティスト関連商品の販売、著作権管理などコンテンツに幅広く関わっています。

【業務内容】 放送番組の制作、番組中継業務、放送番組字幕制作、映像コンテンツの調達、CD、DVD、アーティスト関連商品の企画・制作・販売、音楽著作権管理

本社 〒135-8080 東京都江東区辰巳 2-1-58 WOWOW放送センター

株式会社アクトビラ



テレビを核とした映像配信プラットフォーム事業を展開。VOD、4K配信、ハイブリッドキャストなど、最先端の映像配信技術で次世代のテレビでの動画視聴に幅広く対応します。放送を入りに配信サービスとの自由な行き来を可能とする放送通信融合や、放送・映像の高度化といった「未来のテレビ」の実現を目指します。

「テレビをネットにつなぐだけで、良質で厳選された情報・動画コンテンツを楽しめるサービス」としてはじまったアクトビラ。日本の主要なテレビメーカーのデジタルテレビに対応し、4Kを含む高画質・高品質の映画やドラマ、スポーツなどの映像をご家庭のテレビに配信しています。

【業務内容】 デジタルテレビを中心とするマルチデバイス向け映像配信プラットフォーム事業

本社 〒107-6117 東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル17F

株式会社WOWOWプラス



衛星放送事業として「シネフィルWOWOW」「歌謡ポップスチャンネル」を運営、「Cinefil」ブランドのDVD/Blu-ray出版、劇場配給、ライセンス事業、ホテル向け映像配信事業など、幅広く展開。



厳選した映画・ドラマを放送する名画専門チャンネル。劇場ヒット作から不朽の名作まで、途中CMなしで放送。WOWOWの<連続ドラマW>、英国ドラマもお届け。



日本で唯一の演歌・歌謡曲専門テレビ。人気歌手のコンサートや豪華ゲストを迎えての情報バラエティなどオリジナルコンテンツを中心に放送。

【業務内容】 BS/CSデジタル放送、放送番組の企画・編成、自社番組制作および映像制作受託、DVD/Blu-rayの企画・制作・発売、ホテルのPAY TVシステム企画・販売・運営・コンテンツ供給

本社 〒105-6026 東京都港区虎ノ門4-3-1 城山トラストタワー26F

技術・サポート・海外

高度な映像・音声技術や、お客様へのサポート、海外ライセンサーとの折衝なども、重要な業務のひとつです。

Technology, Support, Overseas

最新の技術で放送を支える 辰巳放送センター

4K収録にまつわる作業拠点の拡充や多様化する国内外の映像回線に柔軟に対応する回線センター、WOWOWメンバーズオンデマンドの配信をスピーディーに行うWeb配信センター、貴重な収録・編集素材をすべて保存するアーカイブ室など、体制を日々進化させています。さらに、5.1chサラウンドの2カ国語放送に対応する設備や最新鋭のスピーカー導入により、音楽ライブやスポーツの臨場感が向上。とりわけ

自社グループの技術スタッフが中心となって制作する音楽ライブ生中継はアーティストからの信頼も厚く、卓越したカメラワーク、スイッチング技術、録音技術により、まるで会場にいるかのような体験を視聴者に提供しています。また、オリジナルドラマの4K HDR(※)での制作や日本でも数少ない3Dオーディオ制作環境を備えた試写室での音声制作など、常に次世代を見据えた取り組みを続けています。

お客様とのフロントラインに カスタマーセンター

すべてのお客様へ行き届いたサービスを提供することが「No.1プレミアム・ベイチャンネル」の使命と考え、札幌・横浜・大阪・沖縄の4カ所に最新鋭のシステムを導入したカスタマーセンターを設置しています。お客様の気持ちに寄り添い“One to One”のおもてなしを実現するため、顧客マーケティングデータを蓄積・分析。「何を見たいのか」とど

まらず「なぜ見たいのか」という視点で、視聴者の皆様とコミュニケーションを図っています。「メンバーズオンデマンドの使い方がわからない」「こんな番組が見たい」など視聴者一人ひとりの声をお聞きして、これからはきめ細かなサポートやフォローを行い、エンゲージメントを高めていきます。

LA駐在員事務所

海外有カメディアやハリウッドメジャースタジオとの関係をさらに強化するため、WOWOWはロサンゼルス駐在員事務所を開設しています。国際共同制作の企画立案など世界の主要なテレビ局とのビジネス展開の可能性を模索し、日々ネットワークを広げています。

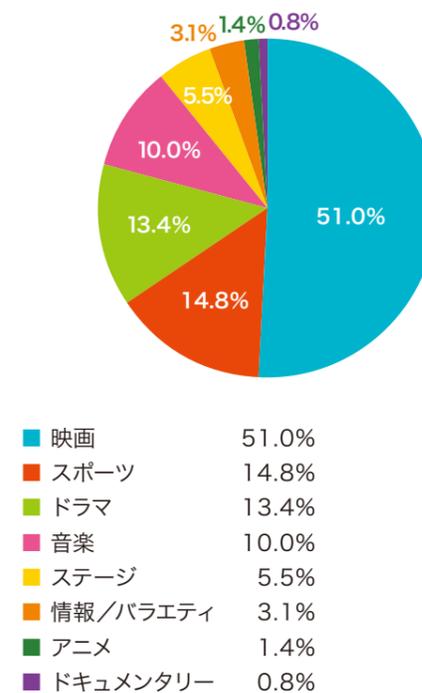
(※)HDR:ハイダイナミックレンジの略。映像の持つ輝度の幅を拡大する技術で、一番明るい部分から暗い部分まで表現することが可能になる。

放送実績

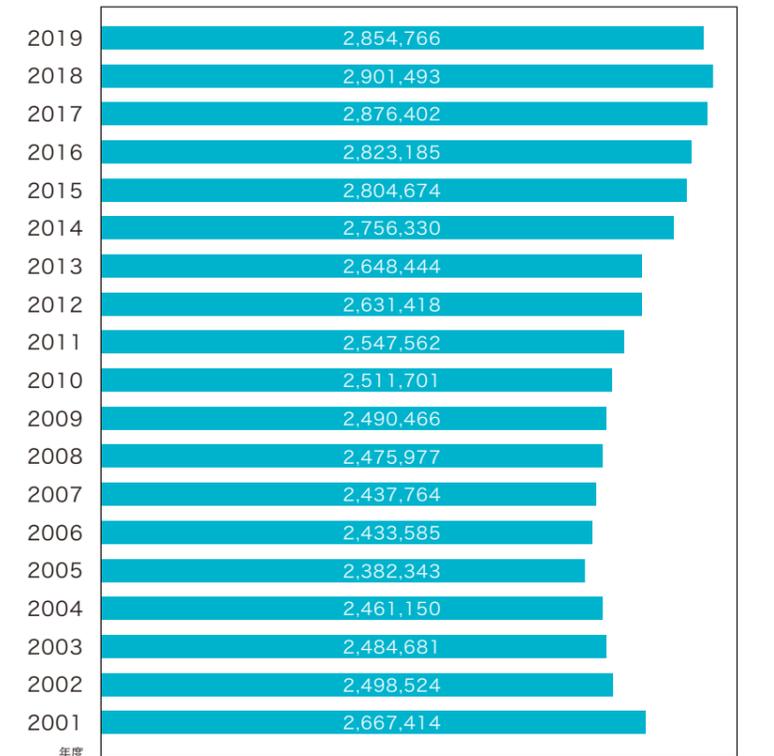
No.1プレミアム・ベイチャンネルとしてますます進化していきます。

Broadcast record

2019年度ジャンル別放送実績



WOWOW 加入件数の推移



沿革

- 1984年 初の民間衛星放送会社「日本衛星放送(現WOWOW)」設立
- 1989年 チャンネルの愛称を「WOWOW」と定める
- 1990年 東京・中央区に視聴者サービスセンターを開設、東京・江東区に放送センターが完成
サービス放送開始(12時間、無料放送)
- 1991年 開局 営業放送開始(24時間、有料放送)、ハイビジョン試験放送開始、在京キー5局の送出業務受託
- 1992年 累計正味加入契約数100万世帯突破(世界の有料テレビ史上最短)
- 1996年 累計正味加入契約数が200万世帯を突破
- 1998年 横浜カスタマーセンター開所 累計正味加入契約数250万世帯を突破
- 2000年 社名を「株式会社WOWOW」に改める、BSデジタル放送を開始
- 2001年 東京証券取引所マザーズに株式上場
- 2003年 「ドラマW」放送スタート 第1回作品は「センセイの鞆」
- 2005年 創業以来、初の配当を実施
- 2010年 スカパー! HD(621~623ch)で放送開始、IPTVサービス「ひかりTV」で放送開始
- 2011年 株式の上場市場を東京証券取引所マザーズから第一部へ市場変更、BSアナログ放送終了
- 2012年 加入者限定無料番組配信サービス「WOWOWメンバーズオンデマンド」開始
- 2013年 初の4K制作ドラマ「ドラマW チキンレース」放送
- 2014年 WOWOW×TBS共同制作 連続ドラマ「MOZU」放送
- 2015年 グランドスラム4大会すべてで車いすテニスを放送、初の4K HDR制作ドラマ「連続ドラマW 海に降る」放送
クローズドキャプション字幕放送を開始
- 2016年 IPC&WOWOW パラリンピック・ドキュメンタリーシリーズ「WHO I AM」放送開始
- 2017年 株式会社アクトビラ、株式会社IMAGICAティーヴィの株式を取得して子会社化
- 2018年 放送のネット同時配信を開始
- 2019年 スカパー! 110度で放送開始

会社情報

会社概要	取締役および監査役	株式の状況(2020年3月31日現在)
社名 株式会社WOWOW	代表取締役 社長執行役員 田中 晃	発行済株式の総数 28,844,400株
URL WOWOW オンライン https://www.wowow.co.jp	代表取締役 副社長執行役員 黒水 則顕	株主数 16,094名
コーポレートサイト https://corporate.wowow.co.jp	取締役 専務執行役員 山崎 一郎	主な株主(2020年3月31日現在) 株式会社フジ・メディア・ホールディングス 株式会社東京放送ホールディングス
主な事業 放送法に基づく基幹放送事業および 一般放送事業	取締役 常務執行役員 熨斗 賢司	日本テレビ放送網株式会社 日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)
放送チャンネル デジタル放送 テレビ BSデジタル191、192、193ch データ放送 BSデジタル791、792ch	取締役 常務執行役員 水口 昌彦	STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)
設立 1984年12月25日	取締役 執行役員 山本 均	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
営業放送開始 アナログ放送 1991年4月1日 (2011年7月24日に終了) デジタル放送 2000年12月1日	取締役 執行役員 尾上 純一	決算ハイライト(連結)(2019年度)
資本金 50億円	取締役(非常勤) 飯島 一暢	売上高 82,450百万円
従業員 299名(2020年3月31日現在)	取締役(非常勤) 石川 豊	営業利益 8,489百万円
所在地 〒107-6121 東京都港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル21F Tel.03-4330-8111(代表)	取締役(非常勤) 石澤 顕	経常利益 9,225百万円
	取締役(非常勤) 大友 淳	親会社に帰属する当期純利益 5,072百万円
	監査役 山内 文博	財務ハイライト(連結)(2019年度)
	監査役 利根川 一	総資産 90,024百万円
	監査役(非常勤) 梅田 正行	負債合計 29,468百万円
	監査役(非常勤) 高橋 秀行	純資産 60,555百万円

見るほどに、新しい出会い。
WOWOW